

## 院長就任のご挨拶

2022年5月1日より先代院長木村厚の後任として、社会医療法人社団一成会木村病院の院長に就任いたしました。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

超高齢社会の到来や新型コロナウイルス感染症といった激動の医療情勢のなか、院長就任という重責を託されたことに、身の引き締まる思いです。

一成会の70余年の歴史の中で医療はめまぐるしく変化を遂げてきました。そのなかで、地域の皆様に信頼される医療機関であるべく「みんなの元気のパートナー」を理念として当院は医療をおこなってきました。長い歴史の中で施設は老朽化・狭隘化し、理念を追求していくためには新病院の建設は必須と考えられてきました。今回ようやく新病院の落成を迎え、職員一丸となって地域の方々のために医療をおこなっていきます。新しい木村病院では急性期病床39床、地域包括ケア病床60床及び訪問診療にて運営をおこない、災害対策、新興感染症対策を強化し地域の方々みんなの元気のパートナーとなれるようさらにパワーアップして参ります。

今後、若者に対する高齢者の割合はさらに増加し、医療ニーズに応えるためには限られた人材で効率的に医療を行っていく必要があります。そのためには職員がより快適と思える職場環境も必要です。当院の理念である「みんなの元気のパートナー」が定義する「みんな」には「地域の方々」だけでなく「職員」も含まれています。新しい病院はその理念を追求すべく患者さんは勿論のこと、働く職員にとっても快適な場所であることをテーマとして設計されました。今後の私の役割のひとつは職員同士が互いに信頼しあい向上しあい笑顔で仕事ができるようなソフト面での環境作りと考えています。

木村病院には地域の診療所の先生方からは地域の急性期病院として、また大学病院等からは後方病院として数多くの患者さんのご紹介を頂いてまいりました。深く御礼申し上げます。今後は地域の方々により効率的な医療を提供するために、さらに親密な病院連携・病診連携を構築する必要があると考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

今後は今までの臨床に加え、院長として病院運営やマネジメントの責務を果たしてまいります。また引き続き外科専門医、循環器専門医、脈管指導医、血管内治療認定医、下肢静脈瘤に対する血管内治療指導医として、またバスキュラーアクセス治療において地域の皆様のお力になれるように研鑽を続けて参ります。この地域に住む方々の未来がいつまでも明るく照らされるよう医療の立場からまちづくりを支えていきたいと思っておりますので今後とも宜しくお願いいたします。



きむら はるか  
木村病院 院長 木村 玄

# Asociado

みんなの元気のパートナー

2022年5月  
創刊号



2階待合ホールから

社会医療法人一成会木村病院  
新病院のご案内

### 病院の概要

所在地 東京都荒川区南千住1丁目1番1号  
病床数 99床（一般急性期：39床、  
地域包括ケア病床（予定）：60床）  
診療科目 外科・血管外科・整形外科・脳神経外科  
内科（循環器・呼吸器・消化器・糖尿病・人工透析）  
泌尿器科・皮膚科・美容皮膚科・リハビリテーション科  
構造規模 鉄骨造地上5階建て  
建築面積 1,274㎡ 延べ面積 5,228㎡  
設計期間 2019年11月～2020年12月  
工事期間 2021年1月～2022年3月  
コンサルティング 総合メディカル株式会社  
設計監理 伊藤喜三郎建築研究所ソム・テック設計共同企業体  
施工 大末建設株式会社

### 設計のコンセプト

地域の方々の健康に寄り添い、  
気軽に訪れやすい医療施設を目指します。

- 地域の「みんなの元気のパートナー」に相応しい建築計画  
・ハザードマップ（浸水予測）を参考に災害時の病院機能継続に配慮した施設  
・外とつながりオープンで親しみやすい共用空間、気持ち良い空間づくり
- 職員の働きやすさを病院の力に変換する・患者動線と職員動線を明確に分けた動線区分  
・外来診療フロアは処置室を中心にスタッフの動線を短縮し機能的な配置
- 立地の特徴を活かした配置プランと外観計画  
・都電荒川線と桜並木に患者空間を開き季節を感じ広がりのある空間構成  
・南側の近隣住宅との離隔、東側の小学校に配慮した配置プラン計画  
・街並みとけこみ周辺の環境からシームレスな延長線にある施設計画

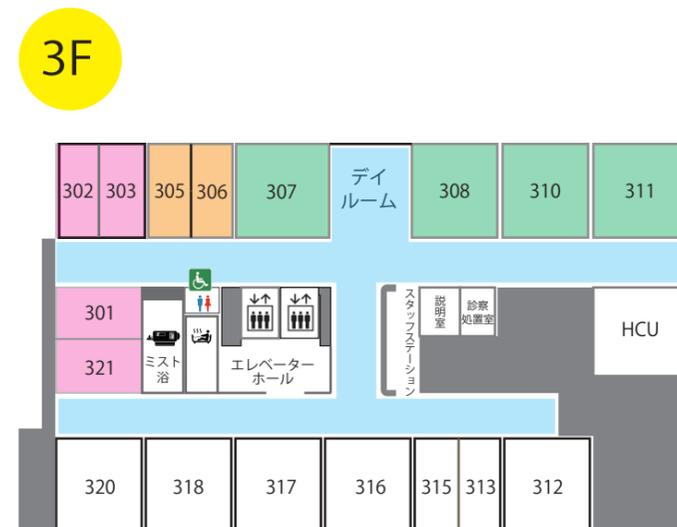
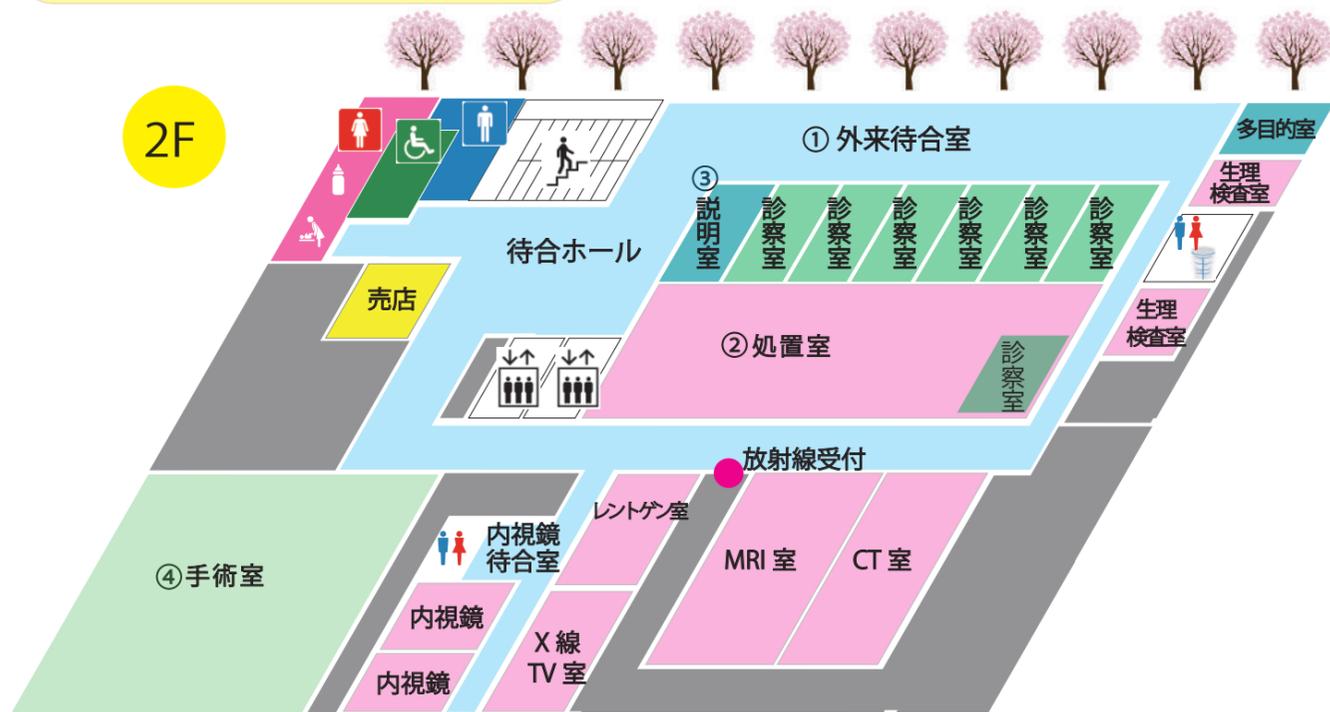


【1階平面計画】

- ① 都電電停及び商店街に近い主玄関
- ② 桜並木に面して配置した中央待合
- ③ 送迎に配慮した駐車場に近い透析室
- ④ 拡充した機能訓練室
- ⑤ 高気圧酸素治療の新設
- ⑥ 患者相談の充実を図る相談室
- ⑦ 独立した動線から入室できる診察室

【2階平面計画】

- ① 環境の良い桜並木に沿って外来待合
- ② 処置室を中心に診察室や検査室、治療室が近く動線が短い、使いやすい外来部門
- ③ 診察室6室のほかに説明室、多目的室を設け円滑な外来診療を柔軟に対応する。
- ④ 手術室と中央材料室、中央材料室と内視鏡洗浄室、内視鏡室とX-TV室、関係性の強い諸室を隣接した機能的な部門配置



【3・4階平面計画】

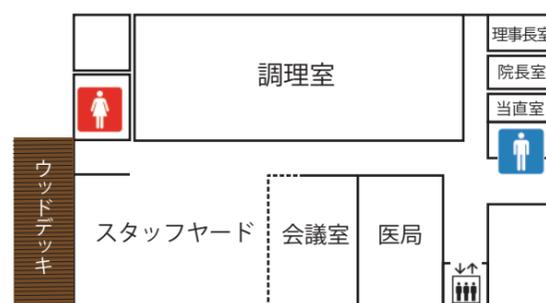
- ① スタッフステーションを中心に配置し動線短縮した病室配置  
HCU（3床）1室、個室8室、4床室9室、計47床
- ② 3階はハイケアユニット（HCU）を計画し、看護密度の高い患者に対応
- ③ 個室はAトイレ無、Bトイレ付、Cシャワー・トイレ付、多様なバリエーションを計画
- ④ 4床室は間仕切り家具でプライバシー配慮

- ⑤ エレベーターホールは夜間訪問者の入室をスタッフステーションから管理
- ⑥ 3階に機械浴室を配置し、看護度の高い患者に対応
- ⑦ 病室の近くに分散配置した患者用トイレ
- ⑧ 廊下に分散配置した収納
- ⑨ 作業効率を計り汚物室を2か所配置
- ⑩ 各階病棟は廊下幅員2.7mを確保し将来の病棟編成変更に対応
- ⑪ スタッフステーションと職員動線（職員階段、職員用エレベーター）を直結し働きやすい環境整備

4F



5F



【5階平面計画】

5階フロアはテラスに通じる大開口の窓やアイランドキッチン有し、4階までのフロアとは一線を画し、およそ病院とは思えない雰囲気としました。職員食堂、会議室、オープンオフィスとしての役割、また、地域の医療従事者とのカンファレンスや地域住民との交流と様々なシチュエーションに対応します。そんな役割を果たすこのエリアは、院内・地域のあらゆるミッションの作戦基地という意味を込めてKAWANOTE BASEと名付けました。